

科目名称	薬理学	学年学期	単位数	時間数
		1 学年後期	1	30
担当教員	田中 守	授業に関わる 実務経験	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 薬剤師 ) <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】 授業概要

薬理学の基礎知識と薬物療法について学び、薬物療法を受ける患者の安全対策を学ぶ。

#### 【2】 学習目標

1. 薬理学の基礎知識を理解し、医薬品の健康障害について理解できる。
2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響について理解できる。
3. 薬物の管理、看護者の責任について理解できる。

#### 【3】 第1看護学科ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

#### 【4】 授業計画

	内容	主な授業形態
1	代表的な薬物の投与経路・剤型、副作用を理解できる。	講義・小テスト
2	薬物体内動態、相互作用・個体差、薬と法律を理解できる。	講義・小テスト
3	抗感染薬の作用、抗菌スペクトル、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
4	がん治療薬の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
5	免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
6	末梢での神経活動に作用する薬物の特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
7	中枢神経系に作用する薬 (1) での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
8	中枢神経系に作用する薬 (2) での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
9	循環器系に作用する薬物 (1) での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
10	循環器系に作用する薬物 (2) での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
11	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
12	物質代謝に作用する薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
13	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬に用いられる薬物での特徴、薬理作用、副作用を理解できる。	講義・小テスト
14	輸液製剤・輸血製剤、看護業務に必要な薬の知識を理解できる。総合	講義・小テスト
15	筆記試験・まとめ	

#### 【5】 評価方法

毎回の講義中に行う小テストの結果 (下記) は、授業態度及び最終評価テストに加点して、総合評価とする。

(小テストは6-7割の正解で1点を得点) (小テストは8割の正解で1.5点を得点)

(小テストは9割以上の正解で2点を得点)

小テスト+授業態度+最終評価テスト=満点100

#### 【6】 教科書

吉岡充弘: 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学(第15版) 医学書院 2025

#### 【7】 参考書

#### 【8】 受講生へのメッセージ

配布プリントと教科書を参照し予習・復習しておくこと。

講義後の小テストは主に配布プリントから出題する。

欠席等により講義の配布プリントが手元がない場合は、担当教員に申し出し、自己の責任において準備すること。